

苫小牧市立清水小学校学校便り

# 清水の子



『未来を創造する  
清水の子の育成』

◇学びを広げる子  
◇思いやりあふれる子  
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

第 5 号 平成 29 年 8 月 28 日 発行



## 不易と流行

校長 一谷 浩之

校長として学校を切り盛りする時に、絶えず心に留めておく考えが「不易と流行」です。「不易」とは時代が変わっても変えてはいけない本質。勇気を持って守っていかなくてはならない本質のことです。しかし、時代を見ずに頑なに妄信的に守るだけでは子どもの未来を拓くことにはつながりません。そこで「流行」を見極める目が必要になります。流行とは流行り廃りではありません。不易を確実に実現化するための時代を読み解く力、時代が要請する新しい力を見つける先見の明のことです。

今、清水小学校に必要な「不易」とは学校教育目標であることは間違いありません。

### 清水小学校 学校教育目標

**学びを広げる子** ~子ども達に確かな学力を身につけさせ、賢い子に育てることです。しかし、求められる学力は時代によって変わるものです。江戸時代の文武は明治の時代には通用しない無用の長物になってしまいました。次の時代を生きる子ども達のために 10 年先の社会を見通さなくてはなりません。

**思いやりあふれる子** ~豊かな心を育み、道徳的態度、規範意識を備えた子に育てることです。しかし、現代的な心の問題としていじめ問題に正対しなければなりません。いじめは昔からあったと言われますが、形態や背景は時代を読まなくてはつかめないものです。また、自分の正義を貫く時代は終わったような気がします。これから求められるのは相手との納得解を見つける時代にさしかかったと感じます。主体的、対話的な深い学びが必要になってくることでしょう。

**たくましさみなぎる子** ~体力を向上させたり、健康の意識を持った子に育てることです。理想としては自然の中を駆け巡り大いに遊ぶ中で体力を身につけることを望むのですが、時代は、それを難しいものにしてしています。子どもが大いに体を使って遊ぶ場と時間の確保が課題です。遊びと共に、科学的検証分析を通したピンポイントの体力作りが必要になっています。

今、改めて清水小学校の教育の中間検証をした時に、これまでの実践、成果、課題が見えてきたと共に、これから目指さなくてはならない方向性も見えてきました。しかし、これらの目標を実現するためには、学校の力だけでは不可能に近いことも見えてきました。子ども達の未来のあるべき姿を地域社会の皆さんと共有して、共に育んでいくことを時代は求めています。清水小学校の学校教育目標の副題には、**未来を創造する清水の子の育成**と謳われています。不易と流行をしっかりと見据えこの子達の未来を見据え、地域社会と共に導いてゆけたらと思います。